FFGS

「ＪＰ２０１７ ICTと印刷展」出展レポート

実践的ワークフローシステムが注目の的

〝富士フイルムの技術力を　皆さまの変革力に〟テーマに

富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ（社長：真茅久則氏、以下・FFGS）は、4月19日㈬・20日㈭の2日間にわたり大阪で開催された「ＪＰ２０１７ ＩＣＴと印刷展」に、富士フイルムデジタルプレス㈱&FFGSグラフィックサプライ㈱と共同出展した。会期中は多くの顧客が来場した。

ＪＰ展は今回から会場をマイドームおおさか（大阪市・中央区）に移し、展示会名称も「ＩＣＴと印刷展」へと変更。２万２５０１人が来場し、新たなスタートを切った。

「ＪＰ2017」の開会式

ＦＦＧＳのブース

FFGSは、〝富士フイルムの技術力を、皆さまの「変革力」に〟をテーマに掲げ、ワークフローシステムおよびPODの戦略的活用をはじめ、インクジェット技術、省資源ソリューション、パッケージソリューションなど、幅広い分野のソリューションをトータルに提案。またスポンサーズセミナー、ＪＰ事務局主催セミナーではそれぞれ「無処理CTPによる環境配慮印刷」「ICTの活用とワークフロー変革」についての講演を行い、好評を得た。

【FFGSブース出展概要】

▼ワークフローソリューション

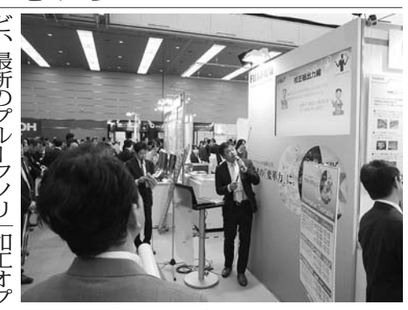
印刷会社が抱えるさまざまな課題に応える多彩なソリューションを取り揃えた。ワークフローシステム「XMF」を中心に、MISと「XMF」との密な連携を実現する「XMF Controller」、自社とクライアント、協力会社、あるいは社内の遠隔拠点などとの連携フローを可能にするWebポータルシステム「XMF Remote」、ASP版のラインアップでいっそう導入しやすくなったWeb to Printシステム「iAutolay Magic」などを出展。個々の顧客から課題を聞きながら、パネルや実機を用いて各システムを提案したほか、具体的な導入効果については、メインステージのデモで事例を交えて紹介した。

CMS関連では、ファインジェットプルーファー「PRIMOJET XG V5・7」の複数拠点運用の事例を紹介。併せて、超高演色LED照明による色評価環境など、最新のプルーフソリューションを提案した。

▼デジタルプレスソリューション

デジタルプレスコーナーで目玉となったのは、最新鋭POD機2機種の実機展示。上位モデルの「富士ゼロックス Versant 3100 Press」は、毎分100ページの高速出力、薄紙から厚紙まで幅広く対応する用紙汎用性、仕事に合わせて選べる充実の後加工オプションなどに注目が集まった。またPOD機のスキャナを使い、早く手軽に行える「Real Match Assistant」にも、高い関心が寄せられた。

ワールドワイドで導入が進み、現在約100台が稼働している「Jet Press 720S」については、圧倒的な再現性・生産性・安定性などの特長を、技術解説も交えて紹介したほか、カーボン紙やキャンバス地などさまざまな基材に出力したサンプルや、後加工機との連携によりワンストップで製作できる紙器パッケージやカレンダーなどの多彩なサンプルを展示。仕上がり品質の高さを間近で確かめてもらった。


プルーフソリューション

富士ゼロックスVersant 3100 Press

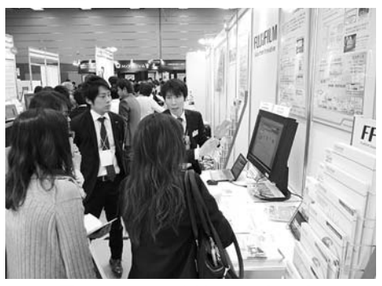
またワイドフォーマットプリンターでは、即戦力タイプのLED UVプリンター「Acuity LED 1600 II」や、フラットベッド機のエントリーモデル「Acuity EY」の種類豊富なサンプルに注目が集まった。

▼パッケージソリューション

軟包装をはじめとするパッケージ分野に向けては、市場で課題となっている小ロット対応や環境対応などを実現するソリューションを提案した。

極小ロット対応やバリアブルパッケージを可能にする軟包装用UVインクジェットプレス「MJP 20W」、生産性・再現性・環境性に優れたフレキソ製版システム「FLENEX SYSTEM」、高品質と高耐刷を両立した感光性樹脂凸版「富士トレリーフ Xタイプ」をパネルで紹介。また食品包装パッケージを中心に、多彩な仕上がりサンプルを展示した。

FFGSグラフィックサプライ取扱製品では、フレキソ印刷機の各種パーツをスピーディーに洗浄できる「FLEXO WASH社製自動洗浄機」、オリジナルのドクターブレード「Adfl exブレード」など、品質向上・作業効率化に貢献する製品群を紹介し


ワークフローソリューション

た。

▼FUJIFILM SUPERIA ソリューション

オフセット印刷向け省資源ソリューション「SUPERIA」の最新ラインアップと具体的な導入効果を、多数の事例とともに伝えた。

中でも熱い注目を集めたのは、完全無処理プレートの新製品「SUPERIA ZD」。好評の「SUPERIA ZP」に新聞用無処理プレートの技術を投入し、高い耐刷性・UV印刷適性を備えたプレートで、これにより、いっそう幅広い仕事で完全無処理プレートの活用が可能になった。

ステージデモでは、全無処理プレートと、現場改善支援ソリューション「Eco&Fast Printing」を中心に、その導入効果をわかりやすく解説。「Eco&Fast Printing」については、従来からの「現場課題解決」に「CMS構築」「無処理プレート導入」「UV印刷導入・課題解決」を加えた新メニュー体系を紹介し、顧客の課題解決をよりきめ細かくサポートしていくというFFGSのソリューション提供の姿勢を示した。

セミナー講演要旨

山南講師

佐々木講師

第1四半期 純利益700万ドル コダック 主力製品ラインの成長維持

コダックジャパンが2017年度第1四半期（3月期）の決算報告を行った。今回の報告では、純利益700万ドルの達成、ならびにKODAK SONORAプロセスフリープレート、KODAK FLEXCEL NXパッケージング、KODAK PROSPER インクジェットの各事業における持続的な成長が焦点になっている。

【業績概要】

◇当期は一般会計原則ベースで純利益700万ドルを計上（前年同期から2200万ドル改善）

◇当期営業活動EBITDAは、前年同期の1900万ドルに対して800万ドル（42％）減

◇当期末の現金残高は、前期末から5600万ドル減の3億7800万ドル。これは運転資金項目（本年度残余期間中の売上に対する一時的な在庫増加分など）での現金支出を反映したもの

◇主力製品ラインの実績は当期も順調に増加

＊KODAK PROSPER インクジェット消耗品・サービスの売上は26％増＊KODAK SONORAプロセスフリープレートの販売量は24％増＊KODAK FLEXCEL NXプレートの販売量は22％増。

PROSPER事業については「継続」の戦略的決定を下し、PROSPER事業を継続事業としてエンタープライズインクジェット システムズ事業部内に組み込むように財務報告を修正。

経営体制の改変についても発表を行った。

マイクロ3Dプリンティング&パッケージング事業部（MPPD）内のマイクロ3Dプリンティング事業は、新事業部アドバンスト マテリアルズ&3Dプリンティング テクノロジー（AM3D）に移管し、AM3Dはこのほか旧知的財産ソリューションズ事業部の業務も統轄する。

また従来MPPDが統轄していたフレキソグラフィック パッケージング事業は、新たにフレキソグラフィック パッケージング事業部（FPD）として再編した。

当期売上は前年同期から5％減の3億5700万ドル、為替インパクトを除いた実質ベースでは4％減だった。

その主な要因としてはプリプレスプレート事業での価格圧力のほか、当初から予測されていたように、従来商品であるコンシューマー向けインクジェットプリンターカートリッジの売上減が続いたことが挙げられる。

ただし、こうした影響はPROSPERの消耗品・サービス、SONORAプレート、FLEXCEL NXプレートの伸びによってある程度まで補われている。

当期の一般会計原則ベースの純利益は、前年同期から2200万ドル改善して700万ドルだった。営業活動EBITDAは前年同期から1100万ドル減の800万ドルとなったが、為替インパクトを除いた実質ベースでは900万ドルだった。

講演会も盛況

㈱第一印刷所

導入3カ月で大きな効果

「Jet Press 720S」導入発表会

操作パネルの起動ボタンを押す堀一社長

㈱第一印刷所（本社：新潟市中央区和合町2－4－18、代表取締役社長：堀一氏）は4月5日、新潟市江南区曙町の本社工場において、インクジェットデジタル印刷機「Jet Press 720S」の導入発表会を開催し、1月から進めてきたテスト運用の成果や今後の活用戦略などについて紹介した。同社は「Jet Press 720S」を小ロット商業印刷ビジネスの新戦力と位置づけ、圧倒的な高画質と機動力を活かした付加価値の高いサービスの提供に取り組んでいく。

◎高まる品質・スピード要求に応えるため導入を決断

第一印刷所は、商業印刷、書籍印刷、帳票印刷、カード印刷などを幅広く手がけ、グループ会社7社との連携のもと、プランニングから印刷・加工、配送までのワンストップサービスを提供している。新潟県内4カ所、東京都内1カ所に営業拠点を置き、新潟市江南区の「あけぼの印刷団地」内に本社工場を持つ。

小出博信氏

現在、フルデジタル生産体制を目指して設備導入を進めており、デジタル印刷機としては昨年、ハイエンドカラーPOD機「富士ゼロックス Color 1000i Press」を導入。そして今年1月から「Jet Press 720S」を戦力に加えた。

導入発表会ではまず「Jet Press 720S」の本格運用開始にあたって今後の安定稼働を祈願する起動式を実施。神主の祝詞の後、堀社長が操作パネルの起動ボタンにタッチし、「Jet Press 720S」が勢いよく稼働を開始した。

阿部正喜氏

続いて行われた記者発表では、初めに堀社長が挨拶。「当社は二十数年前、プリプレス部門および製品流通業務を分社化。各部門がそれぞれスペシャリストとして独立し、第一印刷所グループ『D's NET』としての相乗効果でより大きな総合力を発揮することを目指している」と、同社のプロフィールを紹介。そのうえで「Jet Press 720S」導入の背景について次のように説明した。

「昨今品質だけでなくスピードに対してもお客さまからの要望がますます強まる中、前工程から後工程までをワンストップでこなすことが求められている。このような時代の流れを踏まえ『Jet Press 720S』の導入を決断した。今年度は第7次中期経営計画の最終年度。次の時代を見据え、お客さまに新たなご提案を行い、ひいてはその先のお客さまにも付加価値の高いサービスを提供できるよう努力していく。中小企業は自力でのゼロからの開発は困難。皆さまから多くの力を借り、お客さまに合わせた独自の創意工夫を生み出していかなければならない。とくに地方の企業は、そのような形で力を発揮することができると確信している。

松本聡氏

今日は当社にとって、デジタル印刷事業の新たな扉を開く起点となる日。皆さまのご協力をいただきながら『Jet Press 720S』の戦略的な活用に取り組んでいきたい」。

◎小ロット・短納期ジョブの効率化に貢献

続いて、富士フイルムデジタルプレスの代表取締役社長・松本聡氏が登壇し「当社は2011年、Jet Pressの発売と同時に発足。現在『Jet Press 720S』は国内で40台が稼働しており、ワールドワイドでは間もなく100台目に到達する」と現状を説明した後、第一印刷所でのJet Pressの活用状況について紹介した。

藤嶋克則氏

「これまで『Jet Press 720S』は、校正や印刷通販、学校アルバム、写真集など、小ロットに近い分野で活用いただいてきたが、第一印刷所様は商業印刷で本格活用されているところが大きな特色。小ロット・短納期のジョブをいかに効率よくこなすかという課題に最適なシステムとして選んでいただいた。今後、私どもも一緒に、商業印刷における『Jet Press 720S』の価値を追求するとともに、必要な機能などについてアドバイスをいただきながら、さらに前進していきたい」。

また富士フイルムグローバルグラフィックシステムズの常務執行役員・藤嶋克則氏は、「1月の導入当初から本格稼働に近い形でご活用いただいており、すでに大きな戦力になっていると伺っている。効率的な運用の結果、既存のオフセット印刷機の稼働率が大幅に向上するなど、さまざまな効果を挙げられており、私どもにとっても、デジタルプレス分野のソリューションを展開するうえで力になる」と挨拶した。

◎市場環境変化への対応、生産性・品質の向上にJet Pressを戦略活用

この後、第一印刷所の常務取締役営業本部長兼企画開発本部長・阿部正喜氏が「Jet Press 720S」の活用戦略について説明した。

同社は、すでにトランザクション系・POD系のデジタル印刷機を導入していたが、今回、一般商業印刷用に「Jet Press 720S」を導入したことで、デジタル印刷機のフルラインアップが揃ったことになる。阿部常務は「今年をデジタル印刷元年と位置づけ、ビジネス変革の取り組みをさらに加速していく」と意欲を示した。

Jet Press導入の背景としては、ニーズの多様化や多品種・小ロット化といった市場環境変化への対応のほか、生産性の向上、校正の品質向上などの狙いがある。1月から実運用を開始し、すでに月産20万枚以上の実績を挙げているが、現在、ポストプレスとの連携による自動化や既存印刷機とのカラーマッチング、薄紙への対応といった技術的課題に取り組み、新たな生産体制の構築を進めている。

阿部常務は「これにより、Jet Press 720Sの具体的な導入効果として、同社は「刷版使用量1万2000版（年間）削減」「既存印刷機の生産性20％向上」、働き方改革の実現として「超勤時間30％削減」を目標に掲げている。

◎顧客に新たな付加価値を提供する「スマートプリント」「おもてなしプリント」

さらに今後の戦略について阿部常務は「お客さまにデジタル印刷ならではの新たな価値を提供していく」とし、「スマートプリント」「おもてなしプリント」という二つのコンセプトを挙げた。

「スマートプリント」は、デジタル印刷機のメリットを最大限に活かし、課題解決型の製品を顧客に提供するというもの。たとえば▼フルデジタルのフローによる短納期対応▼制作部数の最適化による在庫削減への貢献▼試作品製造やテストマーケティングの支援▼データベースを活用したOne to One印刷物の制作…などが挙げられる。

「おもてなしプリント」は、オフセット印刷にはない再現性や小ロット適性を活かし、利用者に配慮した印刷物、感性に訴える高付加価値のツールを提供するもの。具体的には▼インバウンド需要に向けた多言語対応▼ユニバーサルデザイン小ロットのジョブをJet Press 720Sの広色域を活かした高彩度印刷…などである。

阿部常務は「単なる小ロット対応だけでなく、新しい付加価値、新しい商品を生み出すという発想でJet Pressを活用していきたい。それによって、まったく新しい領域へのアプローチが可能になると考えている」と「Jet Press 720S」の可能性の大きさを強調した。

◎すでに枚葉機加工高103％、超勤時間40％削減を達成

最後に、同社の代表取締役社長・堀一氏が「Webポータルによる〝見える化〟」を順に解説。

またこうしたニーズに応えるソリューションとして、ワークフローシステム「XMF」、MIS連携強化ソフト「XMF Controller」、クライアントや協力会社などとの効率的な連携を可能にするWebポータル「XMF Remote」などを、「生産効率2倍」「CTP室の無人化」「クライアントの信頼獲得」といった導入効果の具体例とともに紹介。

さらに富士フイルムが提案する近未来の印刷工場「FUJIFILM Smart Factory」の構想を伝えた。

「コスト削減」という、印刷会社が現在直面している課題に対し、「省工数」を切り口にした解決策を提案した。

具体策の一つとして挙げたのは、省資源効果が抜群に高い「機上現像型の無処理CTPの導入」。印刷機や印刷物に影響をおよぼさない機上現像の仕組みや、「SUPERIA無処理CTPプレート」の刷り出しの早さなどの優位性を詳しく解説した。さらに、もう一つの施策として「高感度UV印刷の導入」を挙げ、その実現のポイントとなるローラーや湿し水などを含めた印刷機メンテナンスの重要性を伝えた。また最新のソリューションとして、高耐刷・UV対応の新完全無処理CTPプレート「SUPERIA ZD」、印刷現場の多様な課題解決を支援する「Eco&Fast Printing」を紹介した。

〝見える化〟を実現▽～利益を生む！ワークフロー変革の実践とWebポータルの活用～

（4月20日開催）

講師＝FFGSワークフロー事業部部長・佐々木健至氏

近い将来に印刷会社が直面する営業面・経営面における課題として、ジョブの倍増、ロットの極小化などを挙げ、これらの変化に対して、「情報の統合」と「ICTの活用」が必須になることを強調。その実践のステップとして、「管理システムの統合」「管理システムと生産ラインの統合」

ICTを活用してワークフローの「最適化」と「見える化」を実現▽～利益を生む！ワークフロー変革の実践とWebポータルの活用～

（4月20日開催）

講師＝FFGSワークフロー事業部部長：佐々木健至氏

近い将来に印刷会社が直面する営業面・経営面における課題として、ジョブの倍増、ロットの極小化などを挙げ、これらの変化に対して、「情報の統合」と「ICTの活用」が必須になることを強調。その実践のステップとして、「管理システムの統合」「管理システムと生産ラインの統合」を順に解説。

またこうしたニーズに応えるソリューションとして、ワークフローシステム「XMF」、MIS連携強化ソフト「XMF Controller」、クライアントや協力会社などとの効率的な連携を可能にするWebポータル「XMF Remote」などを、「生産効率2倍」「CTP室の無人化」「クライアントの信頼獲得」といった導入効果の具体例とともに紹介。

さらに富士フイルムが提案する近未来の印刷工場「FUJIFILM Smart Factory」の構想を伝えた。